評 価 結 果 報 告 書

事業所番号	4670104134
法人名	医療法人　春風会
事業所名	グループホーム　はるかぜ滝の神
訪問調査日	平成19年11月27日
評価確定日	平成19年12月26日
評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族 ＝家族に限定しています。

運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

［認知症対応型共同生活介護用］

1．評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104134
法人名	医療法人　春風会
事業所名	グループホームはるかぜ滝の神
所在地	鹿児島県吉野町1044番地9 （電　話）099－243－2268

評価機関名	特定非営利活動法人　シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号　南光ビル303号
訪問調査日	平成19年11月27日

【情報提供票より】（平成19年11月1日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　17年　2月　21日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	9　人	常勤　４ 人，非常勤　5人，常勤換算　7．0人

（2）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	0　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	300　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（11月　1日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	4	名	要介護2	2	名
要介護3	8	名	要介護4	3	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢　平均	83 歳	最低	71 歳	最高	96 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院　、　西歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

県道に近く住宅街の一画にあるホームは、高台にあり錦江湾を眺めることができる心落ち着く場所に建てられている。秋になると目の前の木々が色づき、メディアにも取り上げられるほどの絶景がみられる。ホーム内は家庭的な雰囲気があり、職員の活気ある声掛けや笑顔が元気付けてくれる。職員は、理念に基づき入居者個々の生活リズムを大切にし、常に入居者とのコミュニケーションを通じて支援していくことを心掛けている。母体は医療法人であり、入居者の急変や状態変化に即座に対応できる体制が整っている。また、口腔ケアに力を入れており、歯科医との連携も充分に図られている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

①活動意欲を触発する物品の用意について･･･掃除道具の置き場所の工夫や食事時の準備について入居者が行えるように、目につく場所にさりげなく設置することで、何を言わずとも自然に行動される姿が見られるようになってきている。②入居者の自己決定や希望の表出への支援について･･･職員の見守りを徹底し、入居者の状態を見ながら不安の解消や外出支援を行っている。③継続的な研修受講･･･勤務に支障のない範囲で、できるだけ多くの職員を研修へ参加させるよう取り組みがなされている。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

職員全体で自己評価に取り組み、新たな気づきをミーティングで確認し合い、日頃のサービス実施につなげて行くように努めている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

会議では、勉強会を中心に行うことでホームについての理解と協力を得ることにつなげる取り組みを行っている。また、参加者が何でも意見を出せるように、会の進行について工夫されている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

玄関に意見箱を設置しており、面会時の連絡ノートへの記載、家族会開催などあらゆる手段でご家族より意見や要望、苦情を出していただけるように工夫している。いただいた意見等については、職員全体で話し合い、必ず何らかの形で答えを出すように努めている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

ホーム周辺が地域住民の散歩コースとなっていることから、地域の皆さんとの接触機会も多く、挨拶や声掛けを積極的に行っている。また、町内会の行事にも参加することで地域交流を図っている。

2.　評 価 結 果（詳 細）

（ ▒ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ご家族という「安心できる人」、地域という「安心して暮らせる場所」を、皆で支えるという思いを込めて理念を掲げている。また、理念の中に口腔ケアを重視した内容が含まれており、特に力を入れて取り組むよう掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に職員全員で理念を唱和し、職員一人ひとりに意識づけがなされている。また、入職時の研修の中で理念の持つ意味を説明し、日常の関わりを通し確認し合うように取り組んでいる。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はできていないが、町内会長より年間行事予定表をもらい、行事内容に合わせて積極的に参加しようと取り組まれている。また、ホーム周辺が地域住民の散歩コースとなっていることもあり、地域の皆さんとの接触機会も多く、挨拶や会話を持てる関係が築かれてきている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング時に管理者より自己評価・外部評価の意義を説明し、職員全体で評価に取り組むようにしている。昨年の外部評価の改善課題については、ミーティング時に見直しをし、現在改善に向けて取り組まれている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をより意味あるものにしたいという思いから、会議形式から勉強会形式に内容を工夫されている。そして、そこから様々な意見が表出され、新たな活動へ繋がるきっかけの場となっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を積極的に依頼し、活用されている。また、市の担当職員のもとを積極的に訪れ、情報交換や意見をいただく機会を多く持つことで顔なじみの関係が築かれている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム独自の新聞を発行し、ホーム内へ掲示するとともに、ご家族へも配布されている。また、ご家族が来られた際、担当者が中心となり生活状況や健康状態の近況報告をし、ご家族からの意見もうかがうなどして、情報交換を行っている。	○	金銭管理についての報告は、入居者ごとの金銭出納帳を提示し確認してもらうよう取り組まれているが、金銭出納帳の収支の記載、日付、家族確認欄、領収書等の添付等、見やすく分かりやすいものへ整理されることが望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回クリスマス会を兼ねて、家族会を開催している。また、玄関へ意見箱を設置するとともに、来訪時にノートを活用して意見をいただくように取り組んでいる。いただいた意見や要望については、まず管理者へ集積され、その後ミーティングにて検討される仕組みとなっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる際の引き継ぎ期間を1ヶ月設け、入居者との関係に混乱が生じないようにしている。また、入職者の経験や認知症ケアの実績を考慮して、勤務体制を調整している。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が外部研修等積極的に参加できるように情報提供したり、勤務体制の調整をしたりしている。研修に参加した職員は、ホーム内で研修報告会や勉強会を開催し、知識の共有に努めている。しかし、職員の経験や能力、力量に合った研修計画は作成されておらず、研修に臨む目的意識は十分とは言えない。	○	職員の経験や能力、力量を考慮した上で、ホームとしての方向性を明確に打ち出した研修計画を立て、職員が確かな目的意識を持って受講できるような体制づくりに期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人内のグループホーム管理者が集まり、月1回情報交換や問題解決に向けた話し合いがなされている。また、同じ地域の中にあるグループホームとの交流を開始し、講習会を一緒に行っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームを見学される機会を作ったり、日中ホーム内で共に過ごしてみたり、また職員が幾度か自宅を訪問して顔馴染みの関係づくりを試みたりと、その方に応じて納得した上でのサービス開始を心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を一緒に行うことで、これまでの経験を活かした話や教えをいただいている。例えば洗濯物の干し方や家庭菜園の野菜の収穫時期についてなど、互いに楽しみを持って生活を送れるよう取り組んでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当職員が中心となり、日常の生活の様子、表情や動作等から、入居者の思いを正確に受け止められるよう取り組んでいる。また、アセスメント表を活用し、ご家族からの情報収集や入居者の希望を聴取している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	3ヶ月毎に入居者、ご家族、職員で介護計画についての話し合いがなされている。また、月1回のミーティングの際、担当職員より状態報告や計画への意見等が出され、計画書へ反映されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画について現状に即したものになっているか見直しを行っている。また、状態変化が見られた場合は、その都度介護計画の見直しを行い、評価・修正している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の病院へ毎週月曜日に定期受診が予定されている入居者について、送迎・通院介助を行っている。また、臨時の受診においても、ご家族が送迎・通院介助ができない状況にある場合、職員が代わって介助している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者のかかりつけ医への情報提供や指示受けは、必要に応じて職員が行っている。また、医療連携体制加算をとっていることもあり、協力病院とのホットラインによりいつでも連絡が取れる体制にあり、相談から入院受け入れまで医療に関する体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアを希望された場合、看取り指針に基づき受け入れから対応まで体制が整えられている。また、同一法人の他グループホームでの終末期ケアのケースをもとに、管理者会議で、より良い最期を迎えていただくための対応について話し合われている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇マナーについては、入職時研修にて徹底されている。また、日常の生活の中での場面を管理者がチェックし、言葉掛けや対応について、必要に応じて個別に職員へ指導がなされている。個人情報の取扱いについては、誓約書をとり利用目的以外で使用することがないよう、また漏れることがないよう取扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の希望を受け、少しでも意に沿うようにいくつかの選択肢をもって提案して対応している。また、職員の問いかけに希望が出ない場合についても、職員が行動スケジュールを決めず、必ず入居者との話し合いのもと、意思を確認しながら決めるようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	〇食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のこれまでの生活背景を考慮しながら、また家事の得意・不得意によって、食事の準備や片付け等の役割分担を個々に合わせて行っている。		
23	57	〇入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、1日おきと決められているが、入浴の時間帯については設定されておらず、入浴日の朝、職員が入浴したい時間帯の希望を聞いて、それに合わせて入浴していただいている。また、希望があれば、入浴日以外の日でも入浴できる体制をとっている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメント用紙にて、これまでの職歴や生活暦等を聴取することで、畑仕事や散歩、家事、また行きつけのファーストフード店への買い物等、個々に合わせた役割や楽しみごとが行えるように計画し取り組んでいる。		
25	61	〇日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	2日に1度買い物へ出かける他、近所を散歩し季節の移り変わりを楽しんだり、少し離れた公園へ出かけて時間を過ごすなどの工夫をしている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	〇鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関については、夜間は防犯を優先するという意味から施錠しているが、日中は、玄関や居室の鍵は施錠することなく開放されている。また、転倒や徘徊防止のために居室の出入り口に必要に応じ、職員手作りの鈴がつけられ、出入りの確認がやさしい鈴の音でできるようになっている。		
27	71	〇災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回災害に対する訓練や勉強会を開催しており、災害時の対応手順については、マニュアルも整備され、職員も熟知している。救急救命の手技についても、職員全員が対応できるよう訓練されている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、同一法人所属の管理栄養士より助言をもらい、栄養バランスがとれるよう留意している。また、ミキサー食については、食材の味を壊すことがないように、食材毎にミキサーにかけるなどして、ひと手間かけて美味しく食べていただけるよう工夫されている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ季節のものをと意識した掲示物や装飾品で、廊下や居間、台所が飾られている。交通量の多い道路に面しているが、さほど車の走る音は感じられない。採光もよくとれ、明るく心地よい空間がつくられている。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはホーム備え付けのベッドとタンス、洗面所がある。そのほかに、入居者それぞれに必要なタンスや机、装飾品等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように配置も工夫されている。		